

公開講座② 講演会
10月27日(土)13:00~14:30

「女性の強みが組織を変える、地域を変える」



18歳で働き始め、トップセールスへ

高卒で働き始めた当時、22~23歳が女性の結婚適齢期で、仕事の辞め時と思われていた。女性と男性の仕事には完全に線が引かれ、女性は男性のアシスタントだった。私も男性と同じように責任ある仕事がしたいと転職する中、車のセールスという仕事に出会った。

ある日、我が家にいらした少しのんびりした印象のセールスマンがトップセールスだと聞き、私も出来るとすぐ応募した。最初は「女性には無理」と断られたが、懇願し採用された。初めて営業用のカバンと名刺をもらった時は、ビジネスパーソンとして認めてもらえた気がして、夢のように嬉しかった。1日100件訪問を目標に、飛び込み訪問しても女性では話も聞いてもらえない。そんなある日、訪問先の若い主婦が「あなたが営業マン?かっこいい!」と共感してくれたことが嬉しくて今でも忘れられない。その後、その方にお客様を紹介していただき、車が売れた時は興奮のあまり帰り道が分からなくなるほどだった。

営業とは、人との出会い。車を売ろうとせず、一期一会を楽しむことが大切。今は「おもてなし」という言葉を頻繁に使うが、自動車業界でその言葉を初めて使ったのは私だと思う。ショールームでも、私はまず「今日は、会社はお休みですか?」「お忙しい中、お越しいただきありがとうございます」と、お客様へのお声かけから始めた。その方に心を持ちライフスタイルが分かれれば、どういう車が必要なのかお勧めする甲斐がある。そして、最後は褒める。褒められて嫌な人はいない。その方の良い所を見つける関係を大切にすることで、営業成績も上がり、大きな自信になった。

女性の強みは「共感力」

女性は、素直に相手に寄り添う言葉をかけることができる。このやさしさは共感力と包容力、おもてなしの心であり、営業に向いている。女性初の支店長に就任した時には、男性社員は「バリア」をはって、近寄ってこなかった。ここで身につけたのが、ホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)は上司がするものだということ。いつも感謝の気持ちで向き合い「あなたは部下として大切な存在である」ということを伝える。叱る時は厳しく叱ったが、絶対引き下げる。とにかく、まっすぐに真剣に向き合うこと。また管理職は、

【講師】林 文子さん
(横浜市長)

いつも強く、タフでなければということは全くない。むしろ弱い所を率直に見せる方が有効。営業成績の悪い社員は、自分に自信がなく、自分の力がわからない。だから褒めてあげる。いくら上司が頑張って業績を引き上げようとしても、本人がその気にならないと伸びない。職場は人の心が集まって仕事をしている場であり、少しでもトップがネガティブな気持ちを持つと、たちまち業績は落ちる。

男女共同参画社会の実現へ

私は、男性中心の組織に女性が参画することで大きな成果があがることを、身を持って証明してきた。女性と男性の数が半々になれば、政治や行政の世界ももっと変わる。対立点を見出して批判し合うのではなく、合意点を探りながら、女性と男性がお互い強みを出し合って弱みを補完すれば、いいビジネス、政治ができるだろう。

日本のトップマネジメントは男性中心で、世界的にみても先進国ではない。国も「なでしこ大作戦」と銘打ち、女性の社会参画を具体的に推し進めようとしている。女性の「共感力」をもっと活かせば市政が変わる。おもてなしはお金をかけないで、心でできる。経営者時代と同様、行政の場でもいつも人と向き合い、仕事を進めていきたい。女性達をもっと幸せにしたいし、社会で活躍してもらいたい。女性と男性が共存すること、すばらしい社会が実現できる。

林 文子さんプロフィール (横浜市長)
東京都生まれ。BMW東京(株)代表取締役社長、(株)ダイエー代表取締役会長兼CEO、日産自動車(株)執行役員、東京日産自動車販売(株)代表取締役社長等を歴任し、2009年8月より現職。ハーバードビジネススクール女性経営者賞(06年)、米フォーチュン誌「世界ビジネス界で最強の女性50人」選出(08年)など、受賞歴多数。



誌上講座

第3回

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



一般社団法人日本家族計画協会
家族計画研究センター所長
きたむら くにお
北村 邦夫
自治医科大学医学部卒。1988年から日本家族計画協会クリニック所長。現在、厚生科学審議会臨時委員、日本思春期学会副理事長などを務める。著書には「セックス嫌いな若者たち」(メディアファクトリー新書)など多数。現在、読売新聞社のサイト・ヨミドクターで「性」の診察室連載中。

妊娠・出産には限界があることを知らせよう

「結婚には適齢期はないけれど、妊娠・出産には限界がある」。最近、僕のクリニックで受診している女性に頻繁に向けられる言葉です。今の仕事に就いてから早24年。当初は思春期外来を標榜し、中高校生が大勢集まるクリニックだったのに、その頃の患者がみんなオトナになって…。しかも、女性が取り組める確実な避妊法の代表格である低用量経口避妊薬(ピル)を手にした彼らは、月経困難症の改善や周期調節が自在にできる魅力に取り憑かれたのか、一向に服用を止めようとしないことに業を煮やした僕からの発言です。非婚を決めたわけではないのに、結婚に対しては必ずしも積極的ではなく、近くで見ていると、カルテが分厚くなっている、その分、年齢もかさんでいくことに一抹の不安を感じ得ません。「だって、結婚すれば子どもなんて産めるのでしょうか」とこともなげにおっしゃる姿が気になっています。

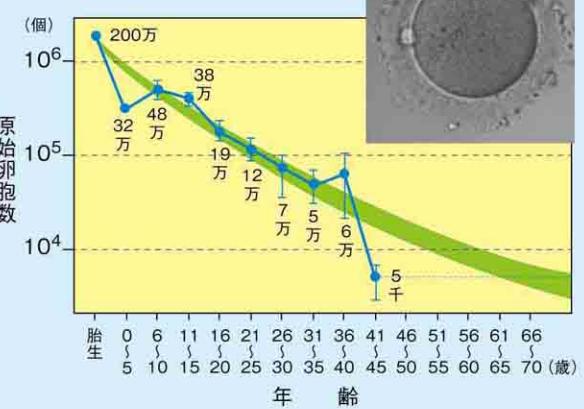
以前、misonoのお姉さんである歌姫倖田來未の一言が日本列島を駆け巡ったことがあります。「羊水が腐る」などというのは科学的にみても事実無根ではあるし、諸般の事情から高齢出産を余儀なくされている女性たちにとっては許し難い言葉として受け止められても致し方ないことなのかも知れません。彼女がどのような経緯でこの失言に至ったのかは知る由もありませんが、学ぶチャンスを与えていない、わが国の教育事情があるように思えてなりません。

少子高齢化、晩婚化など未だ日本人が経験したことのない時代を生きる我々にとって必要不可欠な知識くらいは折に触れて教え、学ぶことが大切ではないでしょうか。例えば、現代人の選択の結果として高齢出産が増えていることは承知していますが、高齢出産に伴うリスクについては意外にも知られていません。むしろ、医学が進歩したので、産みたければいつでも産めるなどと出産を安易に捉える風潮さえあります。卵子提供、代理母などの話題に事欠かないこともそれに拍車をかけています。それこそ誤解です。

卵子は受精に不可欠ですが、胎生期に200万個近くあった原始卵胞(卵子のもと)は時間の経過とともに減少

し、思春期には40万個、40歳を超える頃には5000個を割るなど、顕著に減少していくことを知る人は意外と少ないものです。言い換れば卵子は日々老化?しその数を減らしていくのです。だから、40歳を超えるとなると妊娠はとても難しく、仮に妊娠・出産に至ることがあっても染色体異常などが起こりやすくなります。生活習慣病とも言われる糖尿病、高血圧、高脂血症なども妊娠合併症としては看過できません。その結果として、胎児死兆候のひとつとして羊水混濁などを認めることができます。素人とはいえ、この混濁を「腐る」という表現に置き換えてしまったのでしょうか。超有名人である彼女が公共のメディアでの不用意な発言が醸し出した事件ですが、私たちに当たり前になりつつある高齢出産の問題について考えるきっかけとなりました。

加齢による卵巣における原始卵胞数の減少



Block, E.:Acta.Anat.(Basel)14, 108(1952)より改変

<最後に>

3回にわたってリプロダクティブ・ヘルス(RH)講座を担当させていただきました。RHを3回で完結することは容易ではありませんが、RHとは「男女を問わず良好な人間関係の中で、エイズや性感染症の恐れなしに性的関係を営むことができ、産みたいときには産めるように、産めないのであれば確実な避妊を行うことができる」と要約できます。皆さんも日頃意識されないまでもRHに関連したお仕事をされていることが少なくないでしょう。この講座がそんなことを考える一助になれば幸いです。

ムーブ女性起業家支援塾2012

平成24年11月4日(日)、10日(土)、11日(日)、17日(土)、18日(日)(全5回)

ムーブでは、女性の経済活動における参画と新しい働き方の創造という観点から、女性の「起業・創業」を支援する目的で毎年「ムーブ女性起業家支援塾」を開講しています。

今年度は、「なりたい自分への第一歩 私の事業スタート講座」をタイトルとし、起業に対してまだ漠然としたイメージしか持っていない方をメインターゲットに、事業ビジョンの明確化を図り、実業へつなげていけるようなカリキュラムで講座を実施、15名の方にご参加いただきました。



1日目

「男女共同参画について考える」や「女性のキャリアとお金に関する基礎知識を学ぶ」の講義を行い、女性の経済的自立の重要性や今後のライフプランの築き方などについて考えました。



2日目

事業化の形態や資金調達に関する講義で、営利企業だけでなくNPOやソーシャルビジネスなど幅広い事業形態や資金調達の方法を学ぶことにより、各受講生の事業に合わせた起業形態を考えました。

午後からは、4名の講師による個別の相談、指導を受けながら、事業のアイデアの整理を行い、起業のイメージを文章として記述し、明確にしました。



3日目

2日目の午後に引き続き、個別の相談、指導を受けながら、思い描いていた起業のイメージを文章にし、損益計画を作成することで事業モデルを構築していきました。

午後からは、北九州で活躍されている先輩起業家の講話を聞き、交流会を行いました。受講生からは「先輩のパワフルな姿に感動した」「モチベーションがアップした」などの感想が寄せられました。



4日目

実際に事業を開始した女性起業家を交えてのパネルディスカッションや受講生全体での対話をを行い、これから起業するためにどのような第一歩を踏み出していくかについて考えました。



5日目

ITの活用法やセルフマネジメントの方法を学び、起業に必要なスキルの向上を図りました。

最後に「マイプロジェクト宣言」と題し、受講生が1人5分程度で自分の事業モデルの概要とどのように起業への第一歩を踏み出すかといった具体的なアクションプランについてプレゼンを行い、自分の事業への思いを人に伝えることの重要性を学びました。



まとめ

当初は、はっきりとしていなかった起業のイメージが5日間の講座を通して徐々に明確になり、最終日には各受講生が自分の事業モデルをプレゼンできるまでになりました。講座全体を通して「夢がぐっと具体化した」など受講生の満足度は高く、起業を目指す女性にとって夢や目標を達成するための有意義な講座となりました。

また、この講座を通して、受講生同士のつながりも生まれ、お互いのアイデアを組み合わせて一緒に第一歩を踏み出そうという具体的な動きも始まるなど、新たな「起業家の卵」のネットワークも広がっています。

ムーブでは、受講生の起業へのモチベーションが継続し、実業へつなげていけるよう、引き続きフォローアップを行っていく予定です。

専属販促デザイナー

修了生の感想 田畠 祐子さん



女性の働き方が難しい社会で起業という選択が合理的であることを聞き、背中を押してもらうことができました。自分が社会に求められる事を考え、ぼんやりしていたものが回を追うごとに明確になりました。起業家講師の皆様のお話も大変勉強になりました。また同じ志をもつメンバーと出会えたことも力になり、参加して良かったです。

大学ブランドの日本酒を
製造・販売

修了生の感想 佐藤 由可衣さん



講座当初は、ビジネスプランが夢のようにふわふわしていましたが、最終日には、芯が通ったマイプロジェクト宣言ができました。このセミナーに参加して得られた一番の収穫は、様々な分野で活躍している、また、するであろう方々との「出会い」だと思っています。この出会いが、今後の私の大きな財産・力になると信じています。

柏原 敬子さん 講演会

9月8日(土)10:00~11:30
ムーブ5階 大セミナールーム

「先駆者として歩んできた道 ～自衛隊初の女性基地司令から贈るメッセージ～」

【講師】 柏原 敬子さん (航空自衛隊 第3術科学校長 兼 芦屋基地司令 空将補)

自衛隊で女性として初めて基地司令に着任され、学生と隊員合わせて約2,000人のトップを務める柏原さんに、普段あまり知ることのない自衛隊の実状や、女性初の基地司令着任に至るまでの苦労やエピソードに加え、女性のみならず男性も含めた皆さんへのメッセージを、時にはユーモアを交えながら穏やかな語り口で語っていただきました。



自衛隊に入隊したきっかけは、母校のモットー「Mastery for Service(奉仕のための練達)」、社会奉仕のために、自らを鍛えるという理念への共感と、当時部活をしていた合気道で知り合った女性の先輩が自衛隊幹部候補生学校に入学したことであった。当時は、国の防衛や安全保障に国民の関心があまりなく、自衛官も魅力ある職業とは思われていなかった。国の守りの重要性を感じ、希望を持って入隊するが、「自衛隊に女はいる」と言われることもあった。自衛隊は階級社会であるが、「階級章に敬礼をするのではなく、その人の階級の尊厳に敬礼する。まず尊敬される人間にならなくては。」と一生懸命勉強した。そんな中、女性が男性新隊員を指導するという当時としては前例の無い機会を与えられ、それが自分のキャリアの大きなターニングポイントになった。

現在でも、女性自衛官は全体の5%と少数派である。東日本大震災でも女性自衛官はなかなか派遣されなかつたが、上司に進言し派遣を実現。その後、女性被災者への対応など数多く活躍した。今まで長らく男性がトップに就いていて、女性は発言権のある地位にいなかつたが、現在のポストに就いて発言する機会が増えた。女性の進出、活躍は意義がある。

男女問わず、いかなる時も目標を自主的に設定し、率先して行動することが肝心である。今後も、女性が活躍できる場を増やしていくとともに、男性自衛官の育児休暇の取得も促進し、イクメン自衛官を増やしていきたい。

おとこのライフセミナー



やまとも

山本コウタローさん講演会&ミニライブ

11月21日(水)18:30~20:00
ムーブ2階 ホール

「人生のターニングポイント これからがおもしろい!」

【講師】 山本コウタローさん (フォークシンガー・白鷗大学教授)

定年という人生のターニングポイントを迎えた団塊の世代に向けて、「これからの生き方」をテーマに、ご自身の実体験を交えたユーモアあふれる語り口で伝えいただきました。また懐かしいフォークソングの数々をご来場の方々と一緒に歌っていただき、会場は一体となって盛り上りました。



皆さんそれぞれターニングポイントを持っている。私は「走れコウタロー」がターニングポイント。この「走れコウタロー」が売れ、人生がガラッと変わることになる。続いて「岬めぐり」も流行り、ハッピーアップしたら就職もしないまま30歳。そこで一区切つけようと1年半アメリカで生活した。もっと人生をエンジョイしようというアメリカの空気に触れ、ヒット曲を出さなければという考えがガラッと変わった。自分が楽しんで好きなことをやる。吹いてくる風に逆らわず、帰国後はテレビの司会者などタレント活動へ。

自分は64歳、団塊の世代。自分たちの親を見ていると学ぶ点がある。命は大切だ、できる限り元気で長生きしたい。そこで我々の合言葉「健康は命より大切」。ちょっと怖いし、言い過ぎだけど、いくら命永らえてもずっと寝たきりだと周りに迷惑をかける。人生で大切なことは「息食動想」。呼吸を深く、食べ物に気をつける。動きは「歩く」が基本。無理しない。最後の「想い」がうまく整うと健康になる。想いが鬱々としているとうまくいかず、これからがおもしろい!とは言えない。

老後は人との付き合い、日常的に会話をする人がいてこそ。都市化が進み、地域の中でネットワークが組めない。せめて、一番近くの人とネットワークを組まなければ。そして「生きがい」と自分の役割「ポジション」がないとダメ。

定年でやることがないと思う人は、子どもの頃の夢、やりたかったことにも挑戦する。インターネットもあるし、仲間がいると心が支えられる。ボランティアに挑戦して、向いてないと思ったら止めて、仕事ではないのだから何も言われない。チャレンジする気持ちを持ち続ける。そして、家族、親友を少しでもサポートできる人になれれば、人との垣根がどんどんなくなるはず。